

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部 局 名	都市建設部	
	課 名	土木課	
	係 名	維持係	
	記 入 者		電話(内線) 241

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]		継続		(2) 事務事業 の名称			市道排水整備事業				(3) 事業の 優先度		A				
(4) 総合計画での位置づけ							(6) 事業主体			市							
① 事業の区分		主要事業							(7) 予算・ 財源等 の種別		事業の性質		普通建設事業費(ハード事業)				
② 施策コード		22202		(総合計画掲載ページ 74～76 ページ)							会計区分		一般会計				
基本目標(政策)		2安全で住みやすさを実感できるまちづくり(都市・環境)					財源区分				市単独						
基本施策		2-2ゆとりある住みよいまちづくり(住環境)					予算科目				款 8 項 2 目 2						
施策		②良好な住環境の形成					予算書上の				市道排水整備事業費						
施策内容		2道路排水の整備推進					事業名称				(予算書 135 ページに掲載)						
(5) 事業期間		開始		昭和		30		年		4		月から		(8) 事務分類		自治事務	
		終了						年				月まで (		力年)		根拠法令	

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象（だれに対して・何に対して行うのか）	(3) めざす姿（意図・どのような状態になるのか）
道路の利用者	排水施設(側溝・排水管)を作ることにより, 人や車両が安全に通行できる。
(2) 手段（事業内容・どのようなことを行うのか）	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし) 住民からの要望が多く, 道路や住環境の安全性について, 緊急的な対応が求められている。
排水施設(側溝・排水管)の設置	
(5) 事業をとりまく環境の変化（社会環境, 市民ニーズ等）や市民・議会の要望, 意見等とそれに対する対応 住みやすさが求められる中で, 道路や住環境の安全性への意識は非常に高まっている。	

3. 事業コスト

行政評価 実施計画		実績内容の評価		検討・改善		検討・改善内容を反映	
● 予算内訳		実績額 (千円)	当初予算額 (千円)	計画額・見込額 (千円)			
事業内容		27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	
(1) 事務事業費	排水整備工事	16,038	34,400				
	設計委託料	7,074	10,260				
	武井地内流末排水測量及び設計委託						
	北南茂呂地内排水整備工事						
	武井南地内排水整備工事						
	合計	23,112	44,660				
	国庫支出金 (千円)						
	県支出金 (千円)						
財源	地方債 (千円)		9,100				
	その他特定財源 (千円)						
	一般財源 (千円)	23,112	35,560				
	合計 (千円)	23,112	44,660				
	補助・起債制度名		道路橋梁整備事業債				

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）

指標の名称			単位	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）								
指標名	排水施設(側溝・排水管)の設置	目標値	m		500	500	500	500
		実績(見込)値		400	572			
		目標値						
		実績(見込)値						
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）								
指標名	排水整備率	目標値	%		24.0	24.2	24.4	24.6
		実績(見込)値		23.6	23.8			
		達成率		95.9 %	96.7 %			
		目標値						
		実績(見込)値						
		達成率		%	%			

5. 事業評価

(1) 平成27年度の行政評価結果をうけて、平成27年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。

排水整備事業は市民から多くの要望があり、予算の範囲内で緊急性・必要性を考慮し年次計画にて対応した。

(2) 項目別評価

評価項目・客観的評価				理由
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	ますます必要性は高くなっている(または、緊急性が極めて高い)
妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である	行政以外には実施できない事業である
	手段の妥当性	A	妥当である	現在のやり方が一般的であり、特に問題ない
効率性	コスト効率 人員効率	B	どちらとも言えない	効率は徐々に高まっている(コストは徐々に削減)
公平性	受益者の偏り	A	偏りは見られない	広い範囲に対して便益が提供されており、偏りは見られない
有効性	成果の向上	A	上がっている	概ね目標水準に達している
進捗度	事業の進捗	B	どちらとも言えない	ある程度進んでいる

(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。

予算が削減されていく中で、コスト削減に努めてはいるが、近年ゲリラ豪雨等により住宅地の冠水が増加傾向にある。また、他の事業に比べてコストが高いため、対応が困難である。

(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？

水溜り箇所図の作成等の現状把握・分析

年々市道排水整備の要望が増加する中、より専門的な設計が求められるため、設計委託により対応していきたい。

6. 事業の方向性判断

評価主体	28年度以降の事業の方向性	評価理由・根拠
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う	改善・改革しながら継続(成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減)	注) 記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う	改善・改革しながら継続(成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減)	整備個所の把握に努めその箇所に応じた費用対効果を考慮し、最適な施工方法を選定してコスト削減、成果向上を図る。なお、人と金の拡充については、財政状況と出来る限り調和を図りながら進める。
(3) 最終評価 企画調整会議において評価を行う		上記評価のとおり。